

事業所名：グループホームこころ（なごみ）

作成日：平成 25年 3月 12日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※ 「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、3「サービス評価の実施と活用状況（振り返り）」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<災害対策> 災害時の対応マニュアルはあるが、実際の避難訓練ができていない。職員の入れ替わりがあると、迅速な対応ができていない。	災害対策について、職員の入れ替わり時に説明を行い、全職員が迅速な対応ができる。	①グループホームでの避難訓練を行い、災害時の迅速な対応ができる。 ②職員の入れ替わり時には、災害対策について説明を行う。分かりやすい場所へに提示する。	12ヶ月
2	34	<急変や事故発生時の備え> 急変や事故は常時起きることではないため、当事者になった場合の不安がある。	急変時や事故発生時に迅速な対応ができる。	①体調不良や事故発生の早期発見ができるように、危険予測訓練を定期的に行う。 ②法人や外部の研修会に参加し、知識や技術の向上に努める。	12ヶ月
3	26	<チームでつくる介護計画とモニタリング> 介護計画の作成時、利用者の思いや望みなどの把握を十分にできていない場合がある。	センター方式アセスメントシートを十分に活用し、今以上に利用者の立場に立った、介護計画の立案とモニタリングができる。	①センター方式アセスメントシートの活用の仕方について、勉強会を開催する。 ②日常的に活用できるようになる。（モニタリング）	12ヶ月
4	19	<本人を共に支え合う家族との関係> 来所や行事への家族の参加が増えてきてはいるが、利用者による格差があり、寂しい思いをしている様子が見受けられる。	家族が定期的に来所し、本人や職員と話しをしながら、共に支え合っていることを理解してもらう。	①定期的な来所や積極的な行事への参加を促す。 ②来所が少ない場合には、電話やお便りを活用し、状況報告や相談を行う。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。